

## ケーススタディ <大阪府立高槻北高等学校の場合>

大阪府立高槻北高等学校は昨秋、初めての海外修学旅行でマレーシアを訪れた。実施プログラムは、ジョホール・バル郊外の村でのホームビジットおよびホームステイ（希望者のみ）体験だ。家族との触れ合いにより、生徒達は何を感じ、学んだのだろうか。お話を同校の大田教諭に伺った。



【実施日時】 2008年10月28日～11月1日

【参加人数】 311名

### Q 海外修学旅行を実施したきっかけとは何でしょうか？

A 本校ではここ3年ほど北海道で実施していたのですが、以前勤めていた学校で海外修学旅行の経験があったため、高槻北高校の生徒達にも異文化交流をさせたいという思いがありました。そこで海外での実施を提案してみたところ、担任団からも反対がなく、予想していたよりもスムーズにOKが出されたのです。



行き先はやはり「しっかり交流ができること」と、「リゾート中心でなく国際感覚を養成できること」、「異文化を感じられること」、「親日意識」といった観点で、マレーシア（シンガポール含む）に決定しました。費用的にも12万円という予算で可能でした。ちょうど燃油サーチャージが高騰中だったため、2月の段階で1万円が追加となったものの、活動費自体は北海道の場合とそれほど変わりません。サーチャージは7月に入るとさらに値上がりするところだったのですが、その前の6月の段階で発券手配を行なって対処しました。

### Q 訪れたセメンチュ村での活動内容を教えてください

A 全体では、本校生徒が日本で練習を重ねてきたマレーダンスを披露しました。事前学習としてマレーシア政府観光局大阪支局の方に講演をお願いした際に、マレーシア人留学生によるバンブーダンスや民族舞踊を鑑賞したのですが、その中から比較的踊りやすそうなダンスを選び、3回ほど留学生に來校してもらって教わったのです。



ダンスはまず本校の文化祭で発表し、それをセメンチュ村で再演しました。日本の踊りを披露しても良かったのですが、修学旅行に向けた勉強の成果を見てもらう意味で、マレーダンスにしました。

なお、マレーシア政府観光局の方には、修学旅行前の保護者向け説明会でも講演をお願いし、保護者の方にも安心していただいています。



## Q マレーシア修学旅行の前後で、生徒さんに変化は見られましたか？

A この修学旅行の前は、マレーシアがどこにあるかも知らない生徒がいたほど、彼らにとってマレーシアやアジア地域の認識度は低いものだったかもしれません。しかし行ってみると、マレーシアで日本のアニメが知られているなど案外身近な接点があることに驚き、「アジアの中の日本」という意識が芽生えたようでした。



また今回、村でお世話になったのはイスラム教の家庭でした。事前学習によって頭では理解していても、実際に家族の方がお祈りを始めたり、コーランがスピーカーで流れたりという文化を直に体験できたことは、深く印象に残ったようです。

## Q マレーシア修学旅行ではどういった教育効果が得られたとお考えですか？

A 今回はクアラルンプールなどマレーシアの他の地域を訪れることができなかったため、生徒たちにとって、セメンチュ村のビジット/ステイ先のお宅のイメージが、そのままマレーシアのイメージとなっています。村では子ども達と遊んだり、民族衣装を着せてもらったりしながら親交を深めたのですが、そのわずかな経験の中でも家族の方々の優しさを感じ入ったという生徒が非常に多く、人々との交流を通じて、豊かな人間性が培われたと考えています。



また、アジアの中の日本を感じることで、国際社会で生きる資質を深められたのではないのでしょうか。自分達の日本の生活を見直すきっかけにもなったと思います。

## －どうもありがとうございました

### ◆生徒さんの感想◆

- 精一杯の言語と仕草で異国文化や生活に触れることは貴重な体験だった。
- 一生に一度しかできないことができてよかった。とても可愛がってくれたしあたたかかった。
- ママの料理がおいしくて優しさいっぱい嬉しかった。
- 明るい家族で異文化の生活を学べた。
- すごくやさしくて、自分がうまく話せないのがいやだった。
- 積極的に話しかけてくれたし言葉が通じなかったら辞書で調べたりすごくよくしてもらえた。
- パパとママはいっぱい話してくれてすごく楽しかった。
- 家族全員と近所の子たちとしゃべっていてとてもアットホームな気持ちになり楽しかった。
- 夜に10数人集まってコーランを読んで礼拝していた。
- 手で食べるのは難しかったが、ご飯は一番口にあった。
- 現地の女の子たちと、遊んだり自分の国の話をした。話し合っって考え方の違いに驚いた。

◆アンケート結果◆

○ビジット（ステイ）先ではどんなことをしましたか？

散歩・言葉の教えあい・ゲーム・マレー料理体験・折り紙・買い物・ドライブ・アルバム鑑賞・民族衣装の試着・子どもと遊ぶ（「だるまさんがころんだ」など日本の遊びを子ども達に教えてあげた）・民族工芸・バドミントン・サッカー・似顔絵・

○食事はマレー式（手で食べる）に挑戦しましたか？

「した」251人 「しようとしたが途中で挫折した」13人 「しなかった」19人

○積極的に会話はできましたか？

「できた」84人 「まあまあできた」117人 「あまりできなかった」77人 「しなかった」11人

○おみやげは持って行きましたか？

「持って行った」267人 「持って行かなかった」16人

○ビジットは楽しくできましたか？

「満足」121人 「だいたい満足」67人 「普通」78人 「少し不満」12人 「不満」16人

行程表

	10/28(火)	10/29(水)	10/30(木)	10/31(金)	11/1(土)
	渡航の日	シンガ観光の日	マレー交流の日	自主研修の日	帰国の日
朝食		ホテル	ホテル	ホテル 一部セムンチュ村	機内食
午前	関空集合 出発	シンガポール 市内観光	セムンチュ村 ファームビジット	チェックアウト  シンガポール 市内自主研修	関空着 解散
昼食	機内食	レストラン	セムンチュ村各家庭	各自(班別)	
午後	チャンギ空港着	セントーサ島 観光	セムンチュ村 ファームビジット	ナイトサファリ	
夕食	レストラン	ホテル	レストラン 一部セムンチュ村	ナイトサファリ	
夜	ホテル着	学年全体レク		チャンギ空港発	
宿泊	コスタサンズリゾート	コスタサンズリゾート	コスタサンズリゾート 一部セムンチュ村	機中泊 (JLは機内夕食あり)	

・準備から実施までのスケジュール

実施決定に至るまでの検討過程

- ・学習活動の一環として、リゾート中心でなく国際感覚の養成と異文化理解を主眼に、海外修学旅行を検討することを担任団全員で確認。管理職にも方向性を報告。
- ・中国・東南アジア・オーストラリアの3方面で検討(業者6社)。
- ・費用面・親日意識等で東南アジア(シンガポール・マレーシア)方面に決定。
- ・6業者再見積りにより業者決定。
- ・平成19年5月、職員会議で報告。

生徒・保護者の同意状況

- ・入学式当日に、各担任から口頭で本校初の海外修学旅行を計画していることを、保護者・生徒に告知。
- ・平成19年5月、PTA学年委員会(学級委員16名参加)で状況説明。
- ・平成19年6月、PTA学年懇談会(約100名参加)で、旅行概要と現在の進行状況を文書で配布し説明。不参加の保護者には、後日文書配布。
- ・平成20年2月、進捗状況説明会(約100名参加)で、進捗状況と燃油サーチャージ代金高騰による旅行積立金額変更の説明
- ・平成20年7月、修学旅行説明会(約150名参加)で、詳細説明  
参加同意書集約
- ・各場面で質疑応答を受けるが、否定的な意見は少ない。

事前指導

- ・平成19年度 2学期 事前調査後、学年集会にて調査報告会  
3学期 現代社会で、シンガポール・マレーシアの風土・歴史を学習
- ・平成20年度 1学期 総合的学習の時間を利用して、海外旅行の知識を学習  
2学期 シンガポール・マレーシアの学習  
学校交流の事前準備・練習